水稲の生育状況と今後の管理対策（第３号）

令和６年６月 21 日
新潟県農林水産部

〔６月 20 日現在の県内全域の生育概況〕

◎　コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です。

◎　新之助では指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　６月 20 日発表の北陸地方１か月予報（６月 22 日から７月 21 日）は、平均気温は高く、降水量は平年並みか多い、日照時間はほぼ平年並みと予報されています。

◎　コシヒカリと新之助では、ともに過剰生育が懸念されます。

◎　今後も高温が予想されるため、出穂期は平年に比べて、こしいぶきで５日程度、コシヒカリで３～４日早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

◎　過剰生育や倒伏を防止するため、溝切りを徹底して中干し*1 の効果を高め、コンパクトな稲を目指しましょう。

◎　乾かし過ぎて大きなヒビが入ると根を痛めるので、田面の状態に注意し、大きなヒビになりそうな場合は走り水かん水を行うなど、こまめな水管理をしてください。

新　之　助

◎　５月下旬に田植えをしたほ場でも茎数が急激に増加しているので、速やかに中干しを開始してください。

◎　全量基肥*2 肥料を施用したほ場では６月末頃に葉色がやや濃くなるので、病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除を徹底してください。

*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと
*2 全量基肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

早 生 品 種

◎　今後も気温が高いと予報されているため、出穂期は早まる見込みです。

◎　５月上旬植えのほ場は中干しを終了し、浅水の間断かん水*3へ移行してください。

◎　穂肥*4施用の時期と量を地域の農業普及指導センターやJA等からの技術情報で確認し、１回目の穂肥を遅れずに施用してください。

◎　病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに防除を行ってください。

◎　斑点米カメムシ類の発生が多い地域が見られます。イネ科雑草が実をつけないよう、ほ場内外の除草を計画的に行い、カメムシによる斑点米の発生を防止してください。

適切な水管理

◎　集落や地域で話し合い、限りある用水を有効に活用しましょう。

◎　渇水の影響を受けたほ場では中干しはしない、または、弱い中干しとしましょう。

◎　また、用水が不足し散布した除草剤の効果が不十分となった場合は、ヒエ等の葉齢を確認し、適切な除草剤を選択し、適期を逃さずに散布しましょう。

*3 間断かん水： たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法
*4 穂肥（ほごえ）： 穂が出る前に行う追肥のこと

熱中症予防

◎　平年並の気温でも、湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。

◎　溝切りや除草、穂肥施用など、屋外での農作業では、あらかじめ飲料水や日陰を十分に確保しておくなどの熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意しましょう。

◎　気温の高い時間帯での作業、単独での作業を避けたり、頻繁に休憩を取るなど、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

◎　今後の管理対策発信予定日　7月2日・11日・19日・26日、8月21日・30日

〔補足資料〕

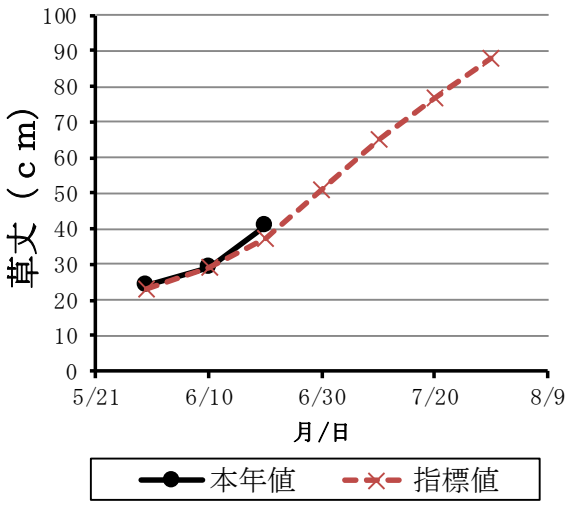
1　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（６月 20 日現在）

コシヒカリ

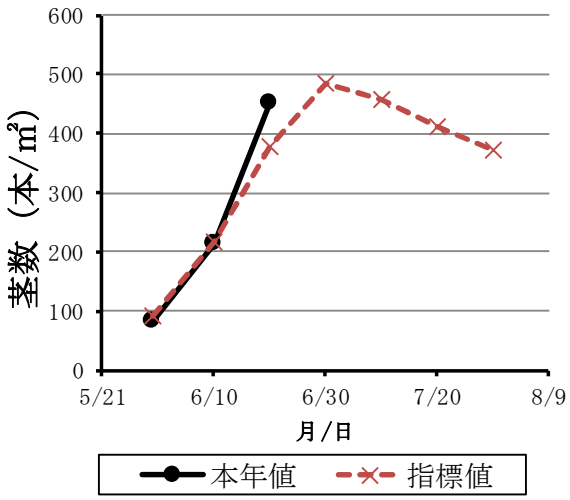
○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」です。

項目	**本年値**	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	**41 cm**	37 cm	長い	111%
茎数	**450 本/㎡**	379 本/㎡	多い	119%
葉数	**9.1 葉**	8.5 葉	やや早い	＋0.6 葉
葉色（SPAD 値）	**40.0**	38.8	やや濃い	＋1.2

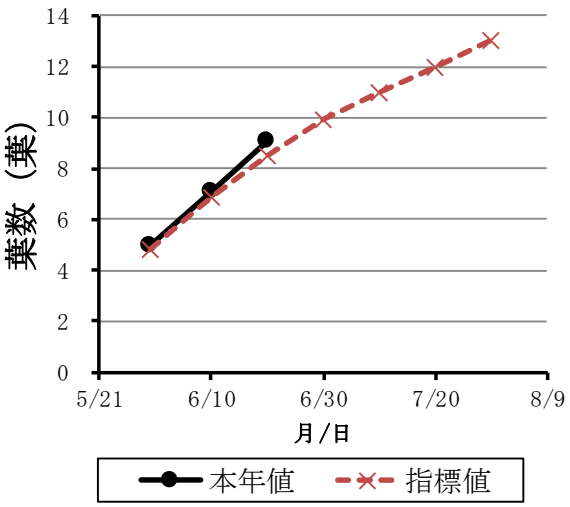
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 11 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



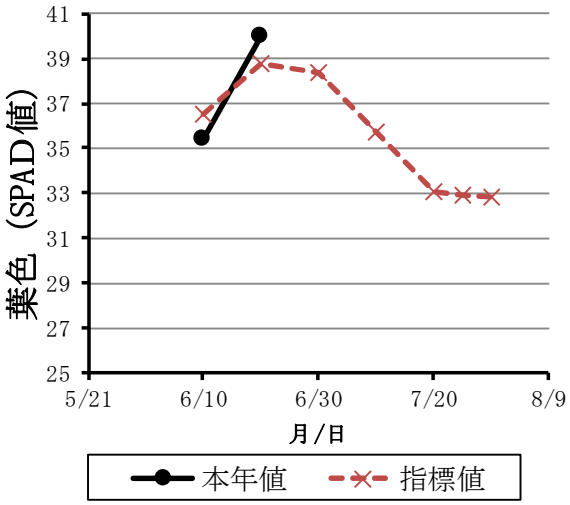
草丈の推移
（県全体）



茎数の推移
（県全体）



葉数の推移
（県全体）



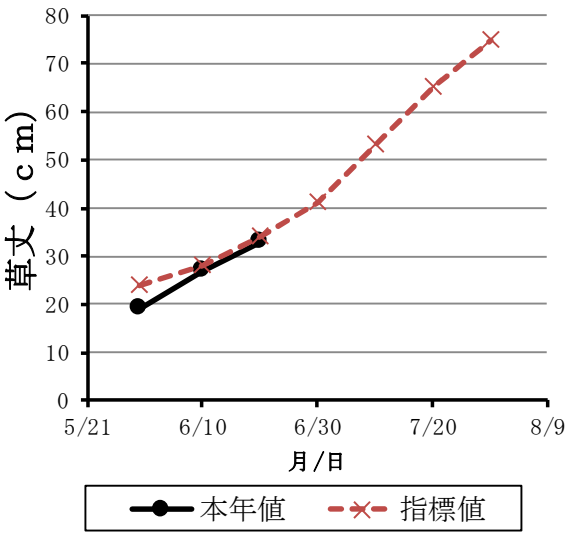
葉色の推移
（県全体）

新　之　助

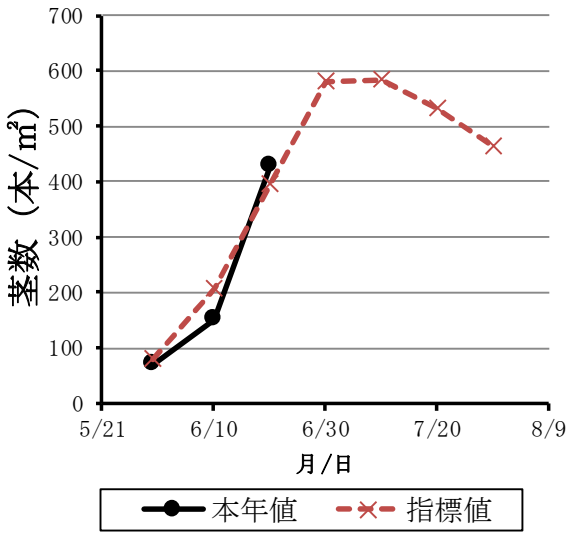
○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」です。

項目	**本年値**	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	**33 cm**	34 cm	並	97%
茎数	**426 本/㎡**	396 本/㎡	やや多い	108%
葉数	**8.7 葉**	8.6 葉	並	＋0.1 葉
葉色 （SPAD 値）	**40.1**	38.9	やや濃い	＋1.2

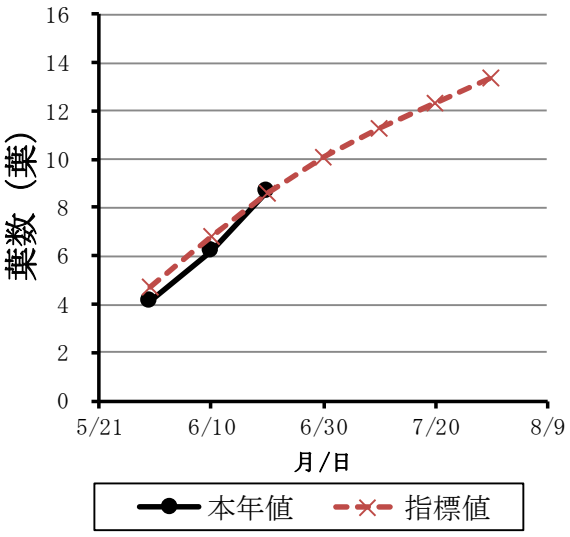
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 18 日、栽植密度 16.6 株/㎡）



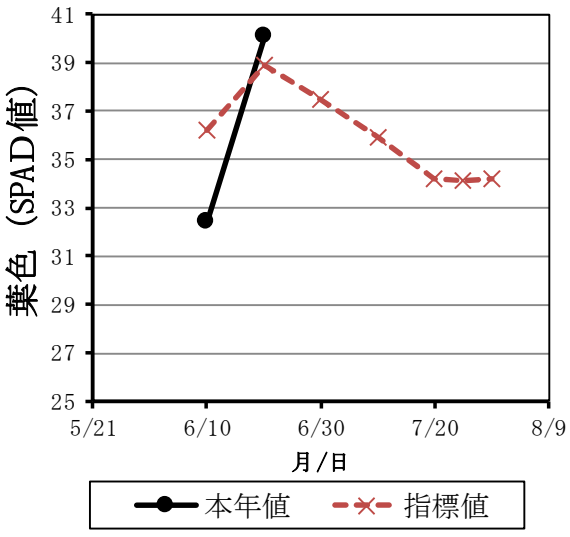
草丈の推移
（県全体）



茎数の推移
（県全体）



葉数の推移
（県全体）



葉色の推移
（県全体）

こしいぶき　（参考）

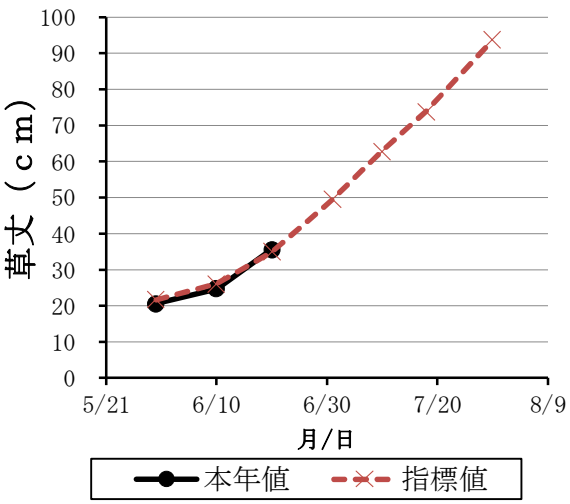
○　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」です

項目	**本年値**	指標値	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	**36 ㎝**	35 ㎝	並	102%
茎数	**513 本/㎡**	524 本/㎡	並	98%
葉数	**9.8 葉**	9.0 葉	早い	＋0.8 葉
葉色 (SPAD 値)	**40.3**	40.9	並	－0.6

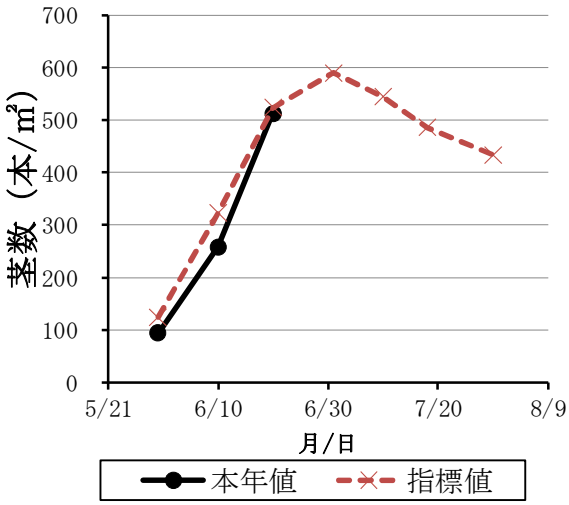
注１）化学肥料栽培。田植え５月 10 日、栽植密度 18.1 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a

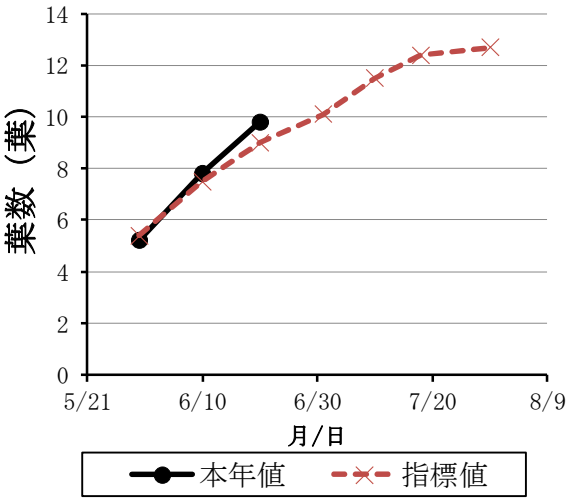
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



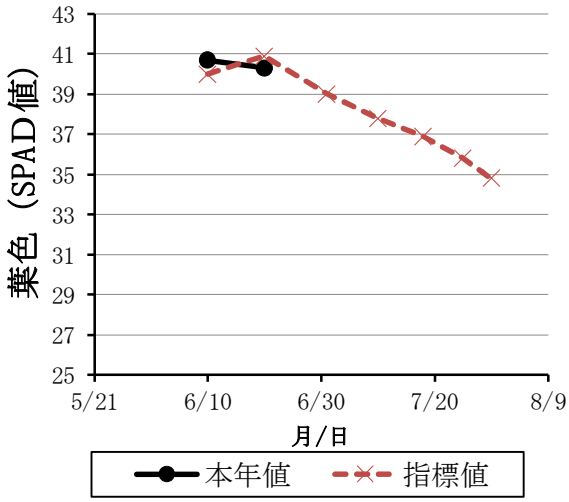
草丈の推移



茎数の推移



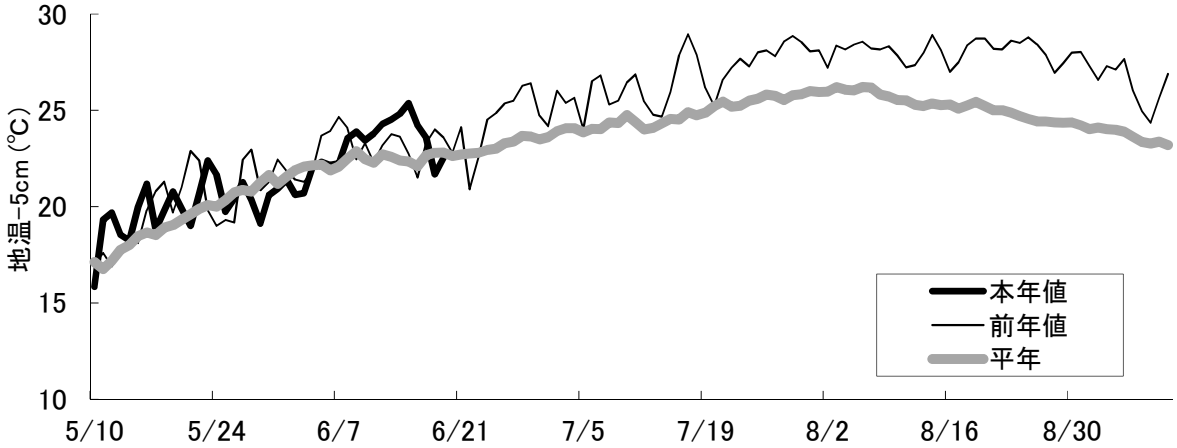
葉数の推移



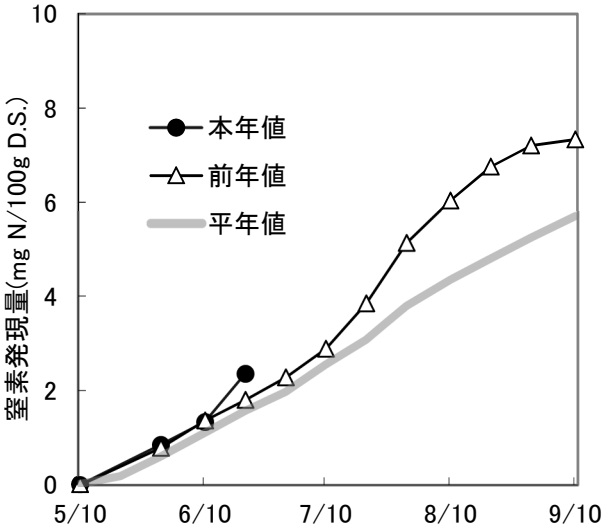
葉色の推移

２　地力窒素（ちりょく）の発現状況

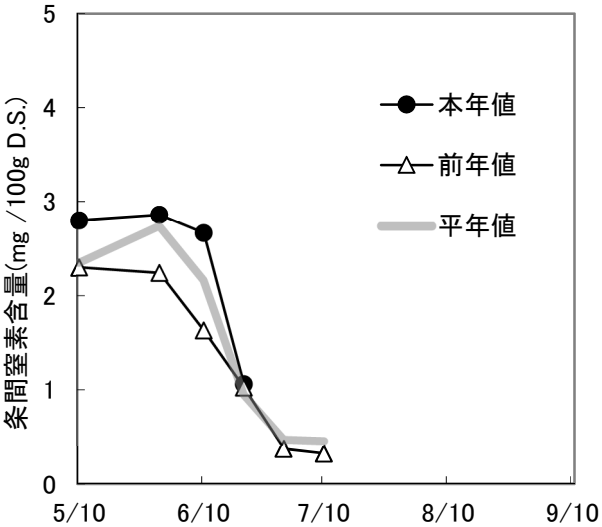
○　6/8～6/19 の期間の日平均地温は平年差+1.1℃で平年よりやや高く推移しました。この期間の地力窒素発現量は平年より多くなっています。条間窒素含量は 6/20 時点で平年並みでした。



水田地温（５cm 深）の推移
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）



地力窒素発現量の推移（６月 20 日）
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
初期値=0、田植日：５月 10 日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量： 3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移（６月 20 日）
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
田植日：５月 10 日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量： 3.5 kg/10a